



学校だより

上小岩



令和5年10月31日

NO.7

江戸川区立上小岩小学校
校長 宮本 知司

今の私って幸せだなあ ～「学校改築」の最中に思う～

校長 宮本 知司

だれにでも読みやすい「UDフォント」は
いかがでしょうか。

まったくの私事です、昭和8年生まれの父親が90歳となり、いよいよ介護を必要とする身となりました。自宅で何とか介護を続ける母親の助けに少しでもなろうと、週末には都内の実家を訪れることが多くなりました。訪問看護の看護師さんやヘルパーさんの本当に献身的なお姿にただ感謝をし、細く小さくなった父親の身体に手を当て「また来るからね」と言葉をかけて家を後にします。

もう、実家で過ごした年月よりも離れて生活してきた時間のほうがずっと長くなりましたが、それでも子供の頃のことや父母、祖母からかけられた言葉などを居間のベッドで横たわる父の顔を見て思い出します。この言葉『吾唯足知（われ、ただ足をを知る）』もそんな中の一つです。中学生の時、友達の家のご飯を引合いに出して「いいなあ、欲しいなあ」などと勝手なことを言う私に、父は厳しく「足を知られ」と叱責しました。そして静かに「今、目の前にある物への感謝を忘れないこと」が幸せに生きていくためには大切だということ、人様と比べ過ぎることは自身を小さな人間にしてしまうことなどを諭しました。その時には何だか難しくて、分かったようなふりをした中学生の私でしたが、後に振り返ると「物の豊かさよりも心の豊かさを大切にする」という生き方の神髄を父は伝えたかったのだと分かりました。枕もとで話しかけても、にっこりと微笑みを返すことしかできない父ですが、4人の息子を本気で育ててくれた親の有難みをしみじみと思います。

10月はそれぞれの学年の子供たちと校外に出かける機会が多くありました。「どこでもいい挨拶をする」「しっかりと話をきいてメモを取る」「のびのびとお弁当を食べる」「下の子に優しく接する」「全力で競技に向かう」等々、どの学年の子たちも『かみっ子の良さ』を存分に発揮する校外での姿で安心しました。



4年生と訪れた中央防波堤の最終処分場でのことです。人々が豊かさを求めて大量消費の生活を続けてきた結果、もう東京には「ごみを埋立処分する場所」が最後のひと区画となってしまったという説明を聞きました。そして子供たちに「毎日の生活の中で、リデュース（食べ物を残さない、要らない物を買わない等）を心がけてほしい」と繰り返し伝えていただきました。かつて「世界一幸せな国」と言われたヒマラヤ山麓の国ブータンでは、海外の情報が自由に入手できる世となり、若者は自国が「幸せ」だと思わなくなってきたという話を聞きました。私たちも今一度、「物の豊かさ」ではなく感謝の気持ちを基盤とした「心の豊かさ」を実感しなくてはいけない、そんな思いでいます。



学校改築の最中の今、よく「大変ですね」「子供たちはかわいそうですね」と何気なく言葉をかけられます。確かに子供たちも我々も大変なことは多いですが、その分ドルフィンのプールで泳げたり、休み時間に公園で遊べたり、二小の子と仲良くなれ

たりという副次的な幸せも味わっています。単なる考え方の転換ではなく「今の状況が幸せだ」と、子供たちが真から思えるようにしたいと思うのです。11月の「展覧会」も体育館だけでなく仮設の校舎いっぱいを使って作品を展示し、中日には夜7時までの「ナイトミュージアム」も企画しました。どうか楽しい気持ちをいっぱいにご来校ください。

<<11月の全校道徳>>

『規則の尊重』

約束やきまりを守り、みんな
が使うものを大切にする。